

ヒューマンキャンパス高等学校

3年 新里 ゆら

雨止み

雨だ。

昨日も雨だった。

一昨日もそうだ。

この雨は止む気配がない。

テレビをつけてニュースをみる。

専門家や芸能人が真剣に議論をしていた。

この雨は異常気象らしい。

原因や、対応の仕方、

世間の声なども紹介されていた。

困惑する。少し暗い気持ちになる。

雨の音が強くなる。

私は内心焦っていた。

こんなにも、

雨が続きと思っていたから。

次の日には止んでいるだろう

と何度も思った。

早く止んでくれ

と何度も願った。

部屋は、

てるてる坊主で溢れかえっている。

毎朝、雨音で起きる。

今日も雨なのか、と自覚する。

ドアの向こうから母の声が聞こえる。

「起きてる？今日は行けそう？」

雨音が耳に響く。

布団から出ることができない。

私は聞こえないふりをする。

雨は一度続いてしまうと、

止むことが難しい。

靴が汚れる。

髪がうねる。

洗濯物が干せない。

小さな憂鬱が積み重なり、

やがて何をするにも億劫になる。

私はもともと、雨が好きだった。

たまに降る雨は、

私の心を浄化してくれた。

「ばらばらっ」と傘に落ちるあの音が、

心を弾ませてくれた。

でも今は、

その一粒一粒がずっしりと重い。

傘をさすことすら許されない。

濡れた衣服が体温を奪う。

毎日降るようになった雨は、私の心から、

前向きな感情すら流してしまった。

この雨は止む気配がない。

いつまで続くのだろう。

明日には止んでいるだろうか。

それとも、

一年後も降り続けているのだろうか。

雨宿りにしては長すぎる日々の中で、

自問自答を繰り返す。

私の雨はいつ止むのだろう。